（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4371000565		
法人名	社会福祉法人　愛敬会		
事業所名	グループホーム　清泉		
所在地	熊本県菊池市七城町亀尾2484番地		
自己評価作成日	平成23年1月21日	評価結果市町村受理日	平成23年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13－12－205号
訪問調査日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①ご家族とのつながりを大切にし、その人らしい生活を送っていただく
②医療との連携により、健康管理に努め、安心して過ごしていただく
③豊かな自然の中で、季節を感じながら、ゆったりと過ごしていただく

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな環境にあるホームでは今年度は隣接の特養施設に地域交流室が開設され、サークル活動に毎週参加し旧友との交流を楽しみに出かける入居者や保育園児・ボランティアとの多様な交流等地域の一員として暮らし続ける基盤を構築させている。職員同士の意思疎通も良く、“私たちの目指す介護”を掲げ、日々話し合いながらケア統一を図る等チームケアを実践している。職員の適切な健康管理や主治医との強固な連携は入居者や家族に安心感を与え、家族から絶大な信頼を博している。ホームでの生活が画一化しないよう入居者の得意分野を見出し編物や習字、生け花等の支援によりメリハリの有る日常を支援している。“ほっとする毎日を過ごしてもらう為に”とするモットーが反映された、温かいホームが形成されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム清泉

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時や年度初めには、必ず法人全体の理念と共に、事業所としての「敬愛」「安心」「地域と共に」を解説し、共有できるようにしている	法人理念を基本として、「敬愛・安心・地域と共に」を掲げ、“ほっとする毎日を過ごしてもらう為に”として職員の目指す介護理念を具現化して示している。毎年法人が目指している「公共的使命」について研修を行い、ホームでも職員会議の中で再確認している。ほっとした生活を理想として、職員は入居者に寄り添い明るくケアに当たっており、今後も思いを共有しながら理念の実践に取組む意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に日常的な交流はなかなかできにくい状況であるが、併設施設内での地域の方との交流の他、地域のボランティアの方等の来訪や散歩時の挨拶程度の交流はできている	周囲に民家が無く、隣接する特別養護老人ホームやデイサービスを訪問する地域住民、ボランティア等との交流に積極的に取組んでいる。今年度は新たに地域交流室も開設され、サークル活動に参加したり、散歩時の挨拶や地域住民も野菜の持ち届けもある。又、母体を慰問する保育園児のと交流は入居者も楽しみとされている様子が訪問時にも確認できた。	職員は毎月ホーム周辺の道路掃除を行う等地域の一員として活動しており、今後も地域の中での生活拡充に地域行事等への参加により地域住民との交流が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として、中学生の福祉体験や高校生の実習などを受け入れているが、地域の方全体への活動へは至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の入居状況や活動状況の他、事故についても毎回報告し、意見や助言をいただいており、運営推進会議の内容をグループホーム会議で報告し、サービスに活かしている	定例化した運営推進会議はホームの活動状況や日常生活等多くの資料を作成し説明し、委員との活発の意見交換からの課題を全職員で検討しケアサービスに反映させている。また、行政による権利擁護の説明等もあり、委員という外部者の目を通じたホームの現状確認に意義を見出している。家族の参加が減少しており、議事録の送付により情報を発信している。今後、家族の希望する日程を把握する意向である。	家族とのかかわりを重要視されている。充実した会議となっており、家族の参加できる日程を相談し、今後も行政・地域委員と家族、ホーム側との意見交換がホーム運営に反映されることが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人の行事などには積極的に来ていただくと共に、事故等に対してはすぐに報告し、状況を共有していただいている	運営推進会議参加時行政担当者との情報交換や事故報告等書類提出時に現状を発信している。管理者は“見守りネットワーク”の会議に参加したり、傾聴ボランティア研修の場を提供する等市の事業に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束に関する学習会を開き、言葉による拘束も含めて、職員全体で拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待・権利擁護に関する法人全体での勉強会により“身体拘束ゼロ”を全職員が共通認識としている。ホーム内でも外部研修に参加した職員による復講を行い、帰宅願望や外出傾向に見守りや傾聴、会話により話題を変えたり、外気浴に一緒に散歩に出かけ気分転換を図る等玄関・居室は開錠し自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会で理解し、マニュアルをつくり、虐待の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会で学ぶ機会があったが、今のところ活用のための支援はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時に契約に関する説明を行い、利用者や家族の不安がないよう、理解、納得していただけるよう努めている。重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制などについても十分説明している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケート調査などを活用している他、家族会で気軽に話せる機会を設けた	日々利用者とのコミニュケーションに心がけ、寄添いのケアや傾聴により要望等の把握に努めている。家族には気軽な訪問や何でも言ってもらえるよう声かけしているがこの一年苦情等は出されていない。運営推進会議や家族会も問題提起の場として活かされ、盛会な家族会は家族同士の交流の機会や悩みを発信する場となっている。ホーム内外の苦情相談窓口の明示や苦情処理第三者委員を設置し家族に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議への参加や年1回以上の個人面談により、管理者は直接運営に関する職員の意見を聞く機会を設けている。今年度は職員の提案により洗面台の改修を行った	管理者は日々職員とのコミニュケーションにより、働きやすい環境作りに取組み、代表者参加による毎月の会議や個人面談により職員の意見や提案を収集している。風呂場の手すり増設や洗面台の改修等職員の観察力が活かされ、全職員で試行期間を設け勤務体制を見直す等業務改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度で自己評価・上司評価・面接により、勤務状況を把握し、各自、半期ごとの目標を掲げて仕事に臨んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内での職員研修・外部での職員研修への参加の他、全員参加の外部講師を招いての“接遇研修”を行った。又、今年度は、法人内研修では自らも発表する機会を持った		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学などを行い、自施設の見直しを行った		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず訪問し、本人と面談することで本人の思いを理解するよう努め、入居時はその都度困っていることがないか訴えを傾聴し、信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービスの利用状況や家族が困っていること、要望等、時間をかけ、ゆっくり聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を傾聴し、今、何に対して困っているか必要としているかを見極め、その人に合ったサービスを提案、情報を提供している。法人内のサービスを希望される方には、参加してもらい、地域の方との関わりが継続できるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、時には利用者よりねぎらいの言葉かけや、利用者同士でも気づかう場面が日々多くみられる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談するとともに、墓参り、法事等の他、日常的にも病院受診時など、家族との関わりを大切にしている。又、年末の居室の掃除などは利用者と共に家族にしていただいている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室に行き続けている利用者や毎週自宅に帰り、仏壇参りや地域の人との交流の継続ができている。また、法人内の介護予防教室に参加し、地域の人との交流ができるよう支援している	仏壇参りに命日に自宅へ帰り近隣住民と交流を継続される入居者、法要や仏事に家族と出かける方、お孫さんの結婚式への出席、選挙、行きつけの美容院、かかりつけ医の継続等慣習や社会性の継続に家族の協力を得て支援している。訪問時にも法人内の介護予防教室に出かけられる入居者の姿もあり、毎週旧友と合えるのを楽しみにされている様子が窺われた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、レクリエーションや行事等でみんなで楽しく過ごす時間を設けたり、利用者が孤立しないように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても併設施設での行事やクラブ活動で共に楽しむ機会があり、移り住む先の関係者に対して本人の状況、習慣など情報を詳しく伝え、環境の継続性等に配慮している		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを用い、利用者や家族の希望や意向の把握に努めている。又、その方にとっての困りごとは何かを理解する為に、ICFの視点で話し合うことを取り組んでいます	入居時に家族に基本情報を記入してもらい、日々のかかわりの中で一人ひとりに向き合い、表情や言葉・行動等を感知し徐々に“私の姿と気持ちシート”に追記し、本人の要望に応えている。お風呂介助（1対1）時のふとした話を見逃さない等気づきあるケアに取組み、“家に帰りたい”との思いに家族の協力により実現する等本人本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを用い、家族に生活歴など記入していただいたり、聴きとりをすることで、情報を収集し、これまでの経過の把握に努め、本人からも聴きとることもあった		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行うことで心身状態の把握に努め、利用者一人ひとりのその日の過ごし方の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望が反映できるよう、ケアカンファレンスには、本人や家族にも参加していただいている。月1回のグループホーム会議でも職員全員でカンファレンスを行い、介護計画に反映している。又、随時ケアを検討し介護計画の見直しを行っている	本人・家族の意向を確認し、入居時には短期目標を1ヶ月とし生活状況やADLの観察期間を設け、毎月のカンファレンスで話し合い、3ヵ月後にキーパーソンとのカンファレンスを行なっている。経過記録等に状態変化や職員の気づきを詳細に記録し、状況に応じた随時の見直しや毎月のカンファレンスや主治医の指示等を朱書きし現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事、排泄、身体状況及び日々の暮らしの様子を詳しく記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしており、口頭での申し送りや申し送りノートの活用で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、病院への送迎等、柔軟に対応し、出来るだけ本人、家族の意向にそえるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人希望で訪問理容サービスを利用したり、市の文化祭に作品を出品したり、併設の特養、デイとの合同行事、又、介護予防教室や絵手紙教室など利用者の希望に沿った支援を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や毎日の定時報告で健康管理に努めている。専門分野においては、従来のかかりつけ医の受診を支援している。眼科と歯科に関しては訪問診療を受けている	希望するかかりけ医でよいことを説明しているがほとんどが協力医へ変更されている。協力医の往診や定時のバイタル報告等連携による健康管理を行い、入居者・家族の安心へと繋げている。専門医療機関の受診は家族との相互協力で受診が実施され、受診結果を共有している。眼科・歯科の訪問診療など適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置し、介護職員と共に健康管理を行い、利用者の状態や必要に応じて看護師に報告、相談をし、場合によっては病院受診、家族への連絡など適切に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、こまめに訪問し、利用者の状況把握・病院関係者からの情報収集に努めている。又、転院の際にも、同様に情報収集を行い、医療機関とも早期退院に向け情報交換をこまめに行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、指針と同意書を作り、家族にアンケートをとり、本人と家族の意向を確認している。医師との連携を密にし、職員間での情報の共有にも努め、終末期ケアを実施した	“重度化対応・見取り介護に関する指針”を作成し、事前確認書を交わしている。協力医の24時間体制での対応のもと終末期ケアが実施され、家族からホームや担当者に感謝の言葉が寄せられている。「このホームで穏やかに最期までお願いしたい。」との家族の希望に、他入居者との関連性も含め繰り返し話し合う意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修やグループホーム会議内でも、急変時や事故発生時に対応できるよう、マニュアルに沿って指導している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに沿って、定期的に特養やデイの協力を得ながら、昼間、夜間想定で避難訓練を行い、運営推進会議で地区の区長や民生委員の方々に理解と協力を依頼している。スプリンクラーの設置も完了した	防災計画に則り消防署立会いの総合訓練や昼夜想定の自主訓練の他、機器点検、地震、風水害、設備点検等毎月のように防災教育を実施している。又、“火を出さないことが全てである”として日々火元点検の実施により有事に備えている。	区長等には訓練の周知を行っており、今後も地域住民へ訓練を行う日程等を周知し、まずは2次的な見守り支援等の協力が得られる等地域との協力体制の強化に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、名前を呼ぶ時は尊敬をもって呼ぶように心がけている。更衣や排泄時はプライバシーの保護に努めており、利用者の気持ちを大切に考え、さりげない言葉かけに努めている	自然態で接する中にも尊敬の心を忘れない職員の対応は、家族からも「優しい言葉遣い」と評され好感が持たれている。毎年プライバシー研修を実施し、個人情報保護規定の掲示や守秘義務の徹底、記録物の事務所での管理など情報漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に尋ね、要望に沿うように支援している。レクや趣味活動、ホーム内外の活動なども無理な押しつけをせず、利用者に選択できるように働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースを大切にし、起床や就寝時間も利用者の希望で対応し、活動などは、利用者の希望に沿って参加してもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張の有料カットや昔からの行きつけの美容室へ出かけられ、カットや染め、パーマなどのおしゃれをされている。起床時や入浴後は好みに応じた衣服を着用できるよう配慮している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを把握し、おやつ作りにも積極的に参加してもらい、作って食べる喜びを感じてもらえるよう支援している。利用者のお誕生日には、要望をとり入れて献立を作成している	昼食の副菜以外はホームでの調理となっており、入居者の嗜好を取り入れた献立や菜園で収穫した野菜も食卓に上り、入居者の会話を引き出している。誕生日には本人の好きなメニューを取り入れ、おやつ作りやお好み焼き等入居者と一緒に作り、天気の良い日は個々にお弁当に詰めホーム庭の東屋での昼食会は達成感を与える等楽しんだ食への取組みである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた食事形態を提供。主食を二度炊き、副食をミキサー食やキザミで提供する等の工夫を行っている。又、定期的に管理栄養士による摂取量のチェックや献立のカロリー計算をしてバランスのとれた食事提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施、又、その人に応じた歯ブラシの選択、利用者によっては磨き直し等の支援も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間を見て誘導してトイレで排泄できるように支援している。訴えを表出できない利用者に対しては動きをキャッチして誘導している。利用者と家族と相談の上、紙パンツから布パンツへ変更し、本人に合わせて支援を行っている	排泄チェック表の記録によりパターンを把握し、時間やしぐさを観察し、トイレでの排泄を支援している。日中はできる限り布パンツで過ごしてもらう事で自信にも繋がり、パッド・リハビリパンツ・オムツと昼夜の使い分けで失敗を失くすように努めている。夜間使用のポータブルは洗浄・消毒され昼間は別場所でカバーをかけ保管している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、排便を促すために、カンテンゼリーを朝食時とおやつ時に2回ずつ提供し、便秘予防に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせ、湯温や湯の量にも配慮し、個別に対応している。 又、脱衣所に手すりを設置し、立ち上がりや、移動がより安全にできるようになった	毎日入浴できるように準備をし、体調や個々の特徴・好みで週2～3回の頻度で支援し、必要に応じ足浴などを取り入れている。拒否に関してはタイミングや声かけの工夫で清潔保持に努めている。水質検査を毎日行い、今年度設置された手すりで安全・安心の支援とし、季節風呂（ゆず・しょうぶ）や近くの温泉施設を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	東側の窓際にテーブルを設置し、日向ぼっこや新聞を読める空間作りをした。また、夜間熟睡できるように尿とりパットの検討を行い、ロングパットを使用することで交換回数を減らし、安眠の支援を行った		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には本人に手渡したり、口腔内に投薬し服用の確認を行っている。又、薬の形態によっては飲みやすい粉剤で提供している。薬の目的や副作用についてはグループホーム会議や申し送りで全職員に周知している。又、症状の変化がある時は、看護師より主治医へこまめな報告を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事（おしぼり作り、モップがけ、洗濯物干しやたたみ）を進んでお手伝いされたり、併設のデイで習字クラブや介護予防教室に参加される、役割や楽しみのある生活を支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけたり、買い物に同行し、スーパーでの買い物を楽しんだり、東屋で手作り弁当を食べたり、植木市やバラ祭り、ブドウ狩り、イチゴ狩りなど出かける機会も多かった。週1回家族支援で帰省を楽しみにされている利用者もおられる	施設内の散歩や特養ホームでの行事・催しに出かけたり、ベランダで愛犬とふれあうなど日常的に外気に触れる機会を持ち気分転換を図っている。食材の買出しへの同行や、地域の農家の好意でイチゴ狩りを楽しみ、家族の協力での帰省や外出・外泊が行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布から嗜好品やお歳暮、お中元、切手代などを支払われる方もあり、金銭管理の支援に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙教室での作品のハガキや年賀状など家族に出されたり、電話で近況報告をされたり、できるだけご家族との交流ができるよう、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者が生けられた花を飾り、季節感をとり入れ、光の刺激には、カーテンの開閉をこまめに行いながら、調節を行っている。寒暖の調節も利用者に尋ねながら、衣服や空調などで環境を整えている	対面式の台所からご飯の炊ける匂いがリビングに広がり、共有空間は明るく、和室は洗濯物を畳んだり横になる空間として落ち着ける場を提供している。職員の特技を活かした空間作り、入居者の得意分野の継続としての生け花を飾ったり、書道教室の作品の掲示している。洗面所を車椅子でも使いやすく改修し、カーテンでの眩しさへの配慮や室温の管理等入居者に優しく、掃除の行届いた清潔な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でひなたぼっこをしながら、新聞を読んだり、窓際の小さなテーブルで、犬に話しかけたりして、好きなように過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや家族との写真を飾り、心地よい空間作りを行っている。又、ベッドの位置（向き）など、環境の変化を最小限にする為の配慮を行っている	自宅や前施設の状況を把握したベッド配置、テレビや家族の写真など多くの馴染みの品が持ち込まれ、陽当たりの良い昼間はﾍﾞｯﾄﾞで布団を広げたり、自分で掃除をする等自宅での生活の延長線上にある居室作りとなっている。年末の大掃除を家族と共に行う等家族の協力も得て居心地良く過ごす工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全の為に、ソファの配置を工夫したり、車椅子でも利用できるよう、洗面台のリフォームを行い、自立した生活が送れるよう工夫した		